

父さんカモメと蒼さん



katasan1019

ある所に父さんカモメがいました。

父さんカモメは、家族を養うため毎日毎日大海原を飛び回りエサを集めていました。

けれど、近頃の環境汚染で餌はとて少なくなり父さんカモメは頭を抱えていました。

ある日、父さんカモメは都会にはいっぱい食べ物があるという噂を他のカモメから聞きつけ、カモメ一家が町に住めるかどうか町に偵察に行くことにしました。

父さんカモメが町に着くとあまりの賑やかさに驚きました。

何もかもが初めて見る物ばかりです。

高い建物・車・人・人・ネオン・電柱。父さんカモメは町をぐるぐる飛び続けていました。そして、エサになりそうな物を見つけて急降下したところ、キラキラ光るカラスよけに目が眩んで、羽を何かにぶつけてしまいました。

折れた様子はありませんでしたが痛くて、痛くて路上でうずくまってしまいました。

そこに、通りがかったのは一人の女性でした。

名前^{あおい}は 碧^{あおい} さんと言いました。

碧^{あおい} さんは父さんカモメを見つけると優しく父さんカモメがおびえて逃げないように声をかけ「どうしたの、羽、ケガしたの」と聞いてくれました。

父さんカモメは 碧^{あおい} さんの言葉はわかりませんでした、痛さのあまり 碧^{あおい} さんに抱えられるままになっていました。

碧^{あおい} さんは羽の具合を見ると打ってはいるけれどかすり傷程度だったので、消毒液を少しつけてくれました。

「もう大丈夫よ、猫に襲われないように気をつけるのよ」と言って、父さんカモメを放してくれました。

父さんカモメは人間にこんなに優しい人がいるものなのかと思ひ、胸が熱くなりました。

父さんカモメの頭の中は 碧^{あおい} さんの事でいっぱいになり、毎日 碧^{あおい} さんの住んでいるアパートの上をぐるぐる飛びました。

碧^{あおい} さんは父さんカモメに気づき「あら、良くなったみたいね。気をつけて飛ぶのよ」と父さんカモメを見かける度に声をかけてくれるようになり、外に出た時は父さんカモメを探すようになりました。

父さんカモメは、このまま自分だけ碧さんのそばで暮らしていくことを考えました。

家族のことは気にはなりましたが、父さんカモメの 碧^{あおい} さんへの思いのほうのはるかに強くなっていました。

ある日、父さんカモメがいつものように 碧^{あおい} さんの部屋の上を飛んでいると、一台の大きな車が止まりました。それは、引越しのトラックで、碧さんの部屋から荷物が次々と運び出されていました。

最後に 碧^{あおい} さんが出てきました。そして、父さんカモメを見つけると「おいで」と父さんカモメを呼びました。

父さんカモメは近くに降りて 碧^{あおい} さんをじっと見ました。

碧^{あおい} さんは「生まれ変わったらカモメになって自由に飛びたいな……。それじゃあサヨナラね」と言って行きました。

父さんカモメは 碧^{あおい} さんの言葉がわかりました。そして、「碧^{あおい} さんには何も出来なかったけど海には家族がいる。帰ろう、碧^{あおい} 海へ」と。でも、父さんカモメは思いました。生まれ変われるならやっぱり、人間になりたいなあと。